



2021年6月号

ウトナイ湖通信

No.205



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ウトナイ湖・春のウォークラリーを開催しました

4月29日および5月1日～5日の大型連休中に、標記のイベントを開催しました。これは、1周約500メートルの自然観察路に設置された「自然に関するクイズ」を参加者に、解いていただくものです。6日間の開催期間中、275名の方にご参加いただきました。

今回は、コロナウィルス感染防止対策として、受付での混雑を避けるため整理券を用意し、10分ごとに受け付けをする形をとり、実施しました。

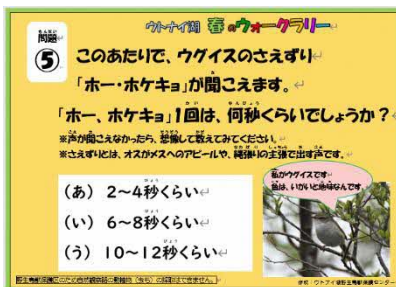
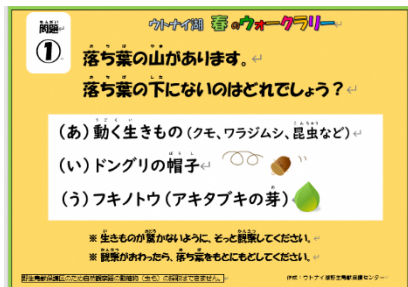


落ち葉の中を観察する参加者



様々な世代の方が参加くださった

例年、同じ時期の開催ですが、気候などにより見られる野鳥や動植物は年によって違いがあります。昨年度は、イヌコリヤナギの花のクイズを入れましたが、今年はずでに花が終わっていました。その一方で、大きく育ったアキタブキをヒントにしたクイズを入れることができました。様々な世代の方がクイズに挑戦くださり、皆さんが答え合わせで一喜一憂される姿を見て、ウトナイ湖の自然を楽しんでいただけたと感じました。



観察路に設置したクイズ (一部抜粋)

イベントで使用した新型コロナ感染症対策のための受付用パーティション。実は、当センタースタッフのお手製でした！



受付をする当センターのボランティアさん



参加者に答えを説明する当センターのボランティアさん



【自然観察路情報】 観察された生きもの

2021年5月18日(火) 10:00~11:10

《野鳥》カワラヒワ、アオジ、センダイムシクイ、ウグイス、メジロ
クログミ、キビタキ、ビンズイ、ゴジュウカラ、アカゲラ

《植物》【花】フデリンドウ、オオヤマフスマ、ツボスミレ、キジムシロ、ミツバツチグリ
ハルザキヤマガラシ、マムシグサ、セイヨウタンポポ、アズキナシ

【つぼみ】ミヤマザクラ、ズミ、エゾノコリンゴ、ヒメイズイ、マイヅルソウ

【葉】ホザキシモツケ、チョウセンゴミシ 【花おわり】ミズバショウ

《その他》モンキチョウ、スジグロシロチョウ、オカモノアラガイ



【水鳥カウント調査結果】

2021年5月13日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * () 内は個体数、(±) は「前後」の意味

コブハクチョウ (2羽)、オオハクチョウ (1羽)、ヨシガモ (9羽)、マガモ (11羽)

ハシビロガモ (8羽)、コガモ (76羽)、キンクロハジロ (20羽±)、アオサギ (4羽)

コチドリ (1羽)、オオジシギ (2羽)、ミサゴ (2羽)

トビ (2羽)、オジロワシ (11羽)、ハクセキレイ (1羽)



キンクロハジロ

オオジシギ

6月の自然予報

植物の開花が見られます。

ズミ (よく似たエゾノコリンゴも見られます)



5月の下旬から、6月上旬が花の見頃です。
白い花が一面に咲く景色が、当センターから3分ほどで行けるバリアフリー観察路で見られます。

チョウセンゴミシ(白い花)

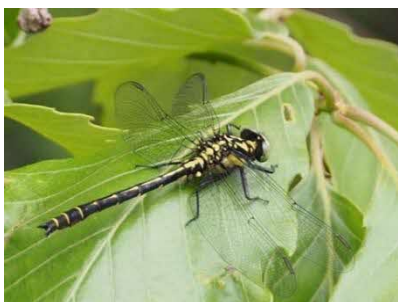


つる性の植物で、木に巻き付いています。林などで見られます。

トンボの仲間が見られるようになります。



ウトナイ湖やその周辺では、生きもの(動植物、昆虫、魚類等)の採取はできません。



コサナエ (腹部は黒く黄色が入る)



シオカラトンボ オスの成虫 (オスの腹部は水色)



シオヤトンボ オスの成虫 (オスの腹部は水色)

【エゾハルゼミ】

全長 4cm ほどのセミの仲間。例年 5 月下旬頃から自然観察路で声が聞こえ始める。「ビョーケー、ビョーケー、リリリリリー」と、林に響く声で鳴く。湖岸沿いにある木にいることもある。姿はあまり見られないが、抜け殻はよく見られる。



*ウトナイ湖に関するクイズ
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q.この時期、ハスカップの小径で、とても大きな葉がみられます。さて、何の植物でしょう？



- (あ) アキタブキ
- (い) オオイタドリ
- (う) ミズバショウ

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ヒガラ

原因：人工物衝突疑い



保護現場の様子

保護時はうずくまっていた

4月28日 16:00頃、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターの正面玄関にある階段で動けずにいるヒガラがいると通報を受け、確認。

周囲に窓ガラスや壁があることから、これらのいずれかに衝突したと疑われた。

保護初診時、体の左側をぶつけたのか、左翼の若干の下垂がみられたが、飛翔に問題はなく、しばらく経過観察をしたところ、動きも活発化したため、リリースにいたった。

リリース



リリース直前の様子

ヒガラ（スズメ目 シジュウカラ科）

全長10.5cm。雌雄同色で、日本産カラ類中、最小の種です。

平地から山地の針葉樹林や針広混交林に生息し、1年を通じ観察することができます。主に昆虫類や木の種子を食べ、樹洞やキツツキの古巣などを利用して繁殖します。



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

【 ボランティア体験 講座 】

～ウトナイ湖の自然情報収集調査体験～

初夏に見られるウトナイ湖の自然 編

2021年6月27日(日) 10:00～12:00



対象：高校生以上 定員：10名(先着順)

申し込み：6月2日～6月25日 17:00まで 電話または直接センター事務所窓口へ



野鳥をはじめとした、多くの動植物が見られるウトナイ湖。どんな自然があるかレンジャーと一緒に調査しませんか。自然観察が初めての方も、お気軽にお申込みください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言などで、中止となる可能性があります。ご了承ください。

市民ギャラリー

第17回 野鳥展 (海鳥)

日時：開催中(臨時休館中はご覧いただけません。)
 ※展示終了日は現在未定です。
 ※詳細はセンターへお問い合わせください。

展示：笠水上 徹明 氏
 内容：海鳥の写真の
 展示です。



お知らせ

臨時休館について

当センターは、北海道全域に発令された新型コロナウイルスに関する「緊急事態宣言」により、5月17日～6月20日まで臨時休館しています。

これ以降の臨時休館の延長等につきましては、当センターホームページまたはFacebookでご確認ください。

◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

